

理学療法士導入による法人内の連携強化について

社会福祉法人 みまき福祉会

住所/TEL 長野県布下 6 - 1 / (0268)-61-6000

URL/E-mail Kango2@cpmimaki.or.jp / Kango2@cpmimaki.or.jp

経営理念 『いつまでもすこやかにいきいきと
安心して暮らし続けたい』
その願いをかなえる核となります。

事業内容及び定員 例：特別養護老人ホーム（50名）1か所
認知症グループホーム（25名）2か所
保育所（60人）2か所
1）社会福祉事業
・特別養護老人ホーム 長期（54名）、ショート（12名）
・デイサービスセンター 3か所（40名・15名・9名）
・認知症グループホーム 1か所（9名）
・ホームヘルプステーション 1か所
2）公益事業
・マネージメントセンター 1か所
・訪問看護ステーション 1か所
3）収益事業
・温泉アクティブセンター 1か所（健康づくり事業＝プール会員 1400名）

収入 (法人全体) 平成21年度決算	①社会福祉事業	719,803,000円
	②公益事業	44,800,000円
	③収益事業	100,850,000円
	合計	865,453,000円

従業員数 (法人全体)	正規職員 71名 臨時職員 47名 パート職員 38名	156名（非常勤含む）
----------------	-----------------------------------	-------------

当面する経営課題 ①収益事業（健康づくり事業）の発展性
②職員の安定化、資質向上（職場環境の改善 → 働きがいのある職場づくり）
③児童、障がい者、高齢者を含めた全ての人の地域社会づくりへの貢献（ノーマライゼーション）
④地域で支え支えられる、小規模サービス事業の展開

発表する取組みに着手した理由、背景 ①医療・介護保険の枠にとられない理学療法の間があったこと。
②ご利用者の更なる健康づくりに協力できたこと。
③職員の更なる健康づくりに協力できたこと。
④法人内の各事業所で連携の強化に協力出来たこと。

発表する取組みの現時点での効果 事業所間を連絡できることで、今まで見えなかった様々な改善点や滞っていた問題点を発見出来き、法人内の他職種連携を深める効果になっている。また、ご利用者と職員の健康は直接的にも間接的にも強くつながっており、それらを強化することで相乗効果が期待できる。今後の取り組みの目標設定が明確になった。



ケアポートみまき

理学療法士導入による 法人内の連携強化について

社会福祉法人 みまき福祉会
理学療法士 大塩 琢也

1

みまき福祉会

- ◇所在地
長野県東御市布下6-1
理事長 倉澤 隆平

- ◇開設
平成7年4月

- ◇経営理念

『 いつまでもすこやかに生き生きと
安心して暮らし続けたい 』
その願いをかなえる核となります。

ご利用者やご家族そして地域の皆様が、私たちのサービスにご満足
頂けるよう、社会福祉法人としての自覚を持って、ケアポートみまきが
果たす役割を再認識し、斬新な発想で経営を推進致します。

2



事業内容

◇事業内容

1) 社会福祉事業

- ・特別養護老人ホーム 長期(54名)、ショート(12名)
- ・デイサービスセンター 3か所(40名・15名・9名)
- ・認知症グループホーム 1か所(9名)
- ・ホームヘルパーステーション 1か所

2) 公益事業

- ・マネージメントセンター 1か所
- ・訪問看護ステーション 1か所

3) 収益事業

- ・温泉アクティブセンター 1か所(健康づくり事業=プール会員1400名)

◇職員数 156名(正規職員71名、臨時職員47名、パート職員38名)

◇事業収入

1) 社会福祉事業	719,803,000円	
2) 公益事業	44,800,000円	
3) 収益事業	100,850,000円	合計 865,453,000円



3

1) 社会福祉事業への取り組み

◇特別養護老人ホーム

◇デイサービスセンター

- ・移乗動作指導、集団体操指導、
スポーツリハ指導、福祉用具の指導

◇栄養課

- ・栄養管理、身体測定(BMI測定...)

◇依田窪福祉会との法人間連携

- ・新人教育研修・リハビリ指導など



4

2) 公益事業への取り組み

- ◇訪問看護ステーション
- ・在宅リハビリテーション

* 診療所との連携

(東御市立みまき温泉診療所)

- ・理学療法
- ・プールリハビリ会員への引き継ぎ



5

3) 収益事業・その他への取り組み

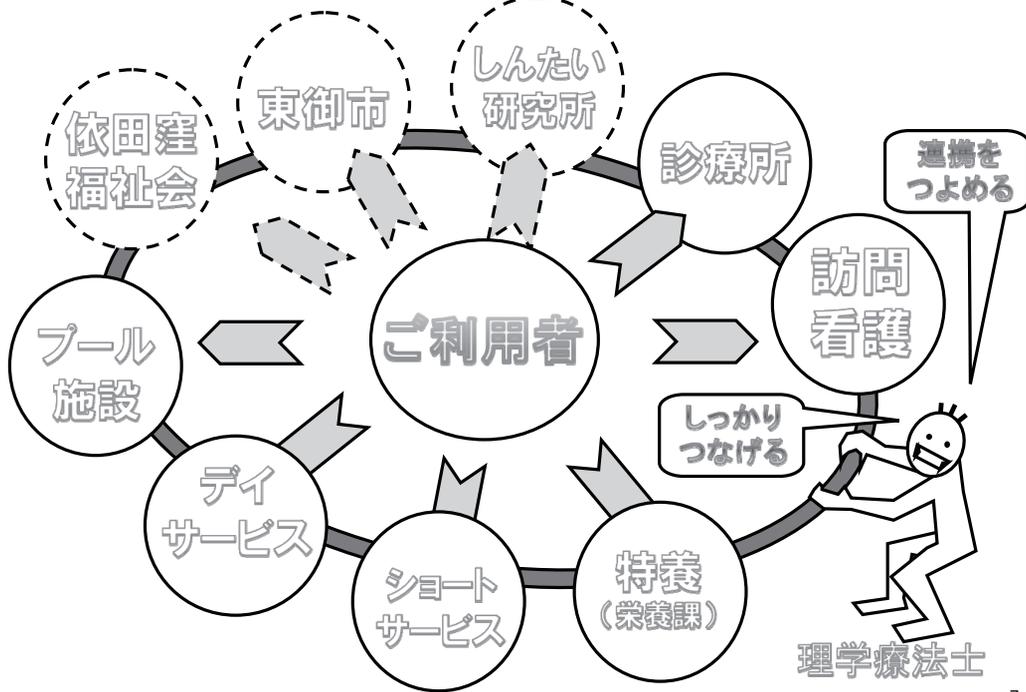
- ◇温泉アクティブセンター
- ・水中運動指導
(個別指導、少人数制教室)
- ・アクアセラピー指導



- ◇しんたい(一般財団法人 身体教育医学研究所)
- ・転倒予防教室、研究調査(健脚度®測定)
- ・地域への取り組み
(老人クラブ連合会「健康教室」の指導など)

6

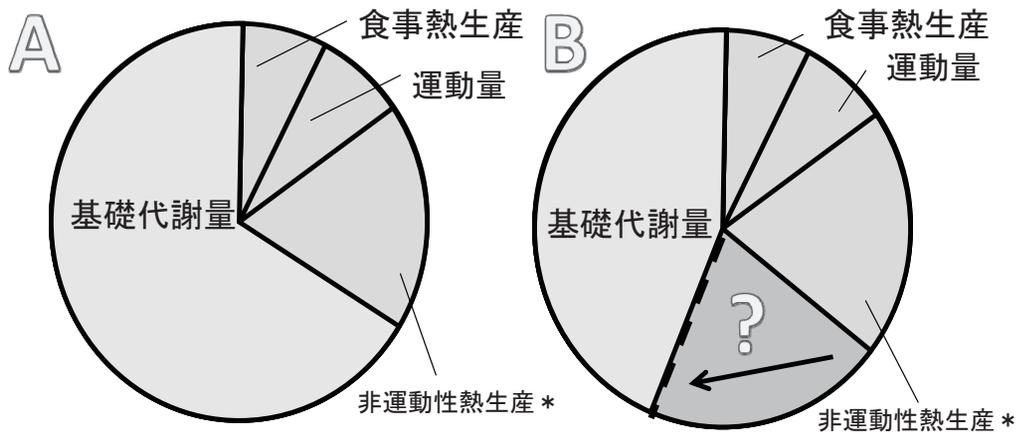
法人内連携のイメージ



7

ちょっとブレイク

• 1日のエネルギー消費量



* 非運動性熱生産 : 立つ、歩く、階段を上がる、下りる、掃除する、自転車で買い物に行く、家事をする、など

Hamilton ら(Diabetes 2007) 改変

8

今後の課題1

◇ご利用者の高齢化

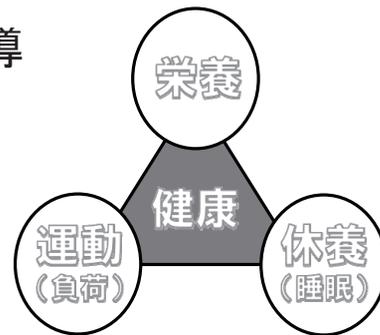
85歳を超えると5人に1人が寝たきり

厚労省「国民生活基礎調査」

◇要介護度増加・肥満傾向

・移乗機器(リフト)・用具の指導

・栄養摂取から健康管理
(管理栄養士との連携)



健康の3本柱

9

今後の課題2

◇施設職員の健康管理

・腰痛、肥満などの健康相談

介護従事者の8割が腰痛経験

・移乗動作指導など

* 腰痛の85%が非特異的腰痛(原因が特定しきれない腰痛)

・安静臥床を推奨しない

・出来るだけ活動を維持し、日常活動を変えない

関東労災病院 勤労者筋・骨格系疾患センター 松平 浩
知っておきたい腰痛の知識－介護職の正しい腰痛予防－

10

福祉機器の使用実態

介護用リフトの比較

日本

VS

欧米

わずか年間4000台程度

年間25万台

厚生労働省通達
「職場における腰痛予防対策指針」
基発第547号

重量物取扱業務に関する法的規制
(介護において、15kg以上は
持ち上げてはいけない等)

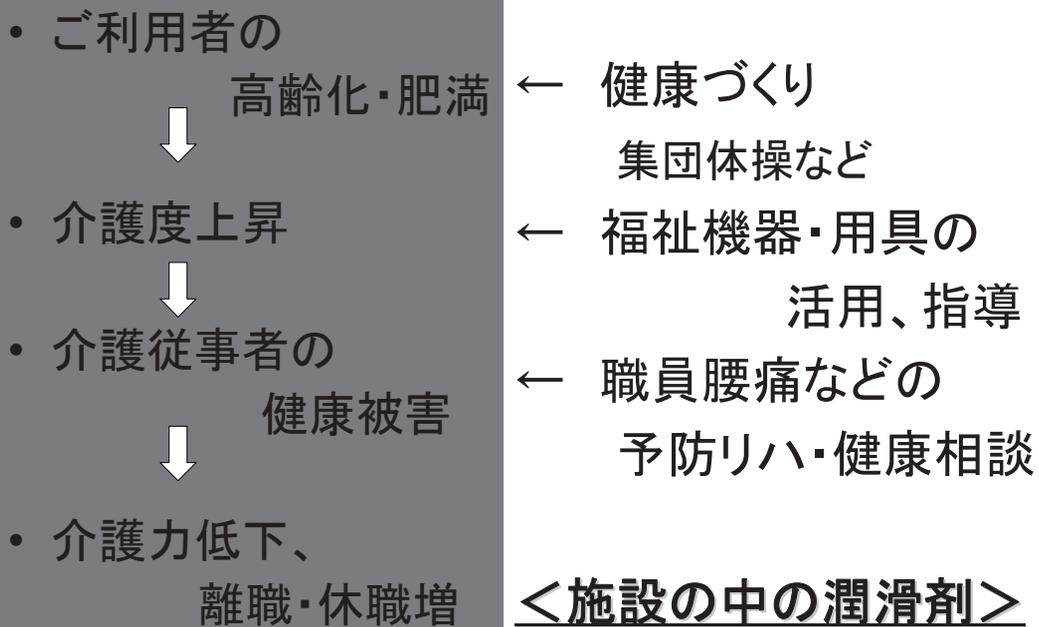
女性の労働基準規則の重量制限
断続作業で30kgまで、
継続作業で20kgまで



平成6年9月 厚生労働省通達

11

理学療法士の役割の一例



12